

令和4年度 経営改革プラン

団体名	一般財団法人神戸在宅医療・介護推進財団
-----	---------------------

設立年月日	昭和62年7月7日	
団体の設立目的・沿革	<p>在宅あるいは地域社会における高齢者等を対象とするケアのあり方やシステムについて調査研究を行うとともに、在宅ケア事業や施設運営などを実践することにより、神戸市民の福祉の向上に寄与する。</p> <p>また、平成28年4月には、本格的な超高齢社会を迎えるにあたり、神戸市における地域包括ケアシステムの推進団体として、今後の事業展開が分かりやすく明確になるように、一般財団法人神戸在宅ケア研究所から名称変更を行った。</p>	
団体の主な事業内容	事業名	所管課
	病院事業	自主事業
	介護老人保健施設事業	自主事業
	訪問看護事業	自主事業
	地域包括支援事業	福祉局介護保険課
	医療介護サポートセンター事業	健康局地域医療課
	認知症初期集中支援事業	福祉局介護保険課
代表者	理事長 細谷 亮	

役職員数 (令和3年7月1日時点)	評議員、理事		監事		職員		合計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	有期	無期	
団体固有職員	1	-	-	-		408	409
市派遣職員	-	3	-	-		8	11
市OB職員	2	1	-	-	4		7
その他	-	15	-	2	190	-	207
合計	3	19	-	2	194	416	634

財務状況(単位:百万円)	令和2年度	令和元年度	差引
経常損益	△ 50	129	△ 179
当期正味財産増減額	△ 62	79	△ 141
流動資産	2,649	2,837	△ 188
流動負債	366	458	△ 92
長期借入金(固定負債)	126	159	△ 33
期末現金預金残高	2,020	2,194	△ 174

■中長期的なミッション（神戸市行財政改革方針2025期間中のミッション）

ミッション①	地域包括ケアシステムの推進
ミッション②	持続可能な経営基盤の確立
ミッション③	人材確保・育成の推進

■短期的なミッション（令和4年度のミッション）

ミッション①	各事業の効果検証及び改善策の検討
ミッション②	新たなリハビリ医療の体制構築及び病院の老朽化対応
ミッション③	財政健全化方策の検討
ミッション④	具体的な人材確保・育成方策の検討

■経営指標（令和2年度）

経営指標				令和元年度	令和2年度	前年度比増減
人的パフォーマンス	職員一人あたり純利益	純利益/職員数	職員1名あたりが、どの程度の利益を上げているか。(百万円)	0.129	▲ 0.100	-0.2ポイント
	経常費用人件費比率	人件費/経常費用×100%	経常費用に占める人件費の割合がどの程度あるか。	77.25%	78.35%	1.1ポイント
財政的パフォーマンス	総資本経常利益率	経常利益/総資本×100%	経常的な収益性はどの程度見込まれるか。	3.33%	-1.35%	-4.7ポイント
	流動資産回転率	売上高/流動資産×100%	流動的な資金が効率的に運用されているか。	150.13%	155.70%	5.6ポイント
財政安定性	流動比率	流動資産/流動負債×100%	短期的な資金をどの程度確保できているか。	619.31%	724.61%	105.3ポイント
	自己資本比率	自己資本/総資本×100%	団体固有の資本がどの程度あるか。	64.97%	65.71%	0.7ポイント
持続性	自己資本当期純利益率（ROE）	当期純利益/純資産×100%	資本を効率的に運用しているか。	3.13%	-2.52%	-5.7ポイント
	純資産増加率	(当期純資産-前期純資産) / 当期純資産×100%	純資産が持続的に増加しているか。	3.13%	-2.52%	-5.7ポイント

■ ミッション工程表

ミッション名		令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度～		
中長期的ミッション													
地域包括ケアシステムの推進	新規入院患者のうち内部障害患者の受入れを5%とする	新規入院患者のうち内部障害患者の受入れを10%とする			新規入院患者のうち内部障害患者の受入れを15%とする			新規入院患者のうち内部障害患者の受入れを30%とする					
持続可能な経営基盤の確立	事業内容の点検・方向性協議			実施									
人材確保・育成の推進	現状・課題の整理			調整・協議			基本方針・制度案策定						
ミッション名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
短期的ミッション													
各事業の効果検証及び改善策の検討	事業内容の検証			ヒアリング・協議			事業見直し・事業目標設定			合意・決定			
新たなリハビリ医療の体制構築及び病院の老朽化対応	心不全リハプログラム構築						心不全リハパイロット運用						
財政健全化方策の検討	業務の洗い出し・財務分析				業務改善・ICT化の検討				ICT化導入の決定				
具体的な人材確保・育成方策の検討	テーマの取り決め			課題の整理			取り組み開始						

■ ミッションを踏まえた団体目標

目標及び実現方法	<p>目標 (できるだけ達成度を表す 数値目標も記載)</p>	<p>○在宅医療と介護を結びつける連携拠点として、神戸市が各区に設置する「医療介護サポートセンター」に派遣するコーディネーターの育成等に努め、医療介護従事者の連携を支えることで、医療・介護サービスの提供が一体的・連続的に行われ、もって高齢者等が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができるよう支援に努める。また、認知症の人にやさしいまちづくりの推進では、神戸市から委託を受け、全市域を対象とした認知症初期集中支援チームの活動に取り組み、認知症の疑いがある方の環境調整や医療・介護サービスへの橋渡しを行うとともに、活動内容を広く関係機関に周知することで、地域に根付いていくよう努める。</p> <p>また、神戸リハビリテーション病院において、新たに心不全など内部障害患者に対するリハビリテーション医療に取り組み、再入院の低下や市民の健康寿命の延伸を図る。なお、内部障害患者の受入れは新規入院患者数の3割を目標とする。(長期的なミッション①、短期的なミッション②)</p> <p>○持続可能な経営基盤の確立については、公的役割を踏まえた事業に適宜取り組む一方で、財団全体の収支の黒字を目標とする。(長期的なミッション②、短期的なミッション①・③)</p>
	<p>「長期的なミッション①、短期的なミッション②」</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・医療介護サポートセンターでは、神戸市医師会と共同でコーディネーターの連携会議を開催し、各区の課題を神戸市とも共有しながら解決に向けて取り組む。 また、多職種による事例検討会を通じて相互理解を深めることで、医療と介護従事者の連携を進め、関係構築を図る。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援事業では、紹介元の大半を占めるあんしんすこやかセンター等への丁寧な説明や市民・関係団体に対する啓発に取り組み、認知症の方を地域全体で支える意識の醸成に努める。 また、早期診断・早期支援に向け、専門性の高い職員の育成に努め質の向上を図る。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・内部障害患者について、急性期病院との連携を強化し新規入院患者の3割の目標を達成すべく取り組むとともに、人員の確保・育成を図ることにより、市民に安心安全な医療を提供する。 ・リハビリテーションを通じたシームレスな医療提供を目指して、地域の専門職に対する人材育成や連携体制の推進に向けた取り組みを行っていく。 	
	<p>「長期的なミッション②、短期的なミッション①・③」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な経営基盤の確立については、各事業の検証と分析を行い、財団の目的に沿った事業の確立及び業務改善を実施する。 	
<p>「長期的なミッション③、短期的なミッション④」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保・育成の推進については、経営状況を踏まえたうえで、給与制度や人事評価制度を構築する。 ・専門資格等の取得支援制度や研修体制の充実を検討する。 ・働き方改革の取り組みとして、多様な働き方の導入やICTの活用を図る。 		

■ 市支援策の活用状況

<input checked="" type="checkbox"/> 外郭団体共通内部通報窓口	<input type="checkbox"/> 経営懇談会	<input checked="" type="checkbox"/> 外郭団体職員向け研修	<input type="checkbox"/> 民間代替性調査
<input type="checkbox"/> 専門家紹介制度	<input type="checkbox"/> 経営診断	<input type="checkbox"/> 企業統治状況調査	

■ ミッションの達成状況（団体自己評価）

（1）中長期的ミッションの達成状況

・「地域包括ケアシステムの推進」では、神戸リハビリテーション病院における新規入院患者(859名)のうち心疾患や呼吸器疾患等の内部障害患者の受入れは4.7%（計40名：心疾患11名、呼吸器疾患29名）で目標の5%を概ね達成した。併せて、専門性が必要な医療的ケア児に対する訪問看護を実施した。（計：24名）

・「持続可能な経営基盤の確立」については、神戸市の指定を受け財団全体の経営診断を受診し、「収益性、生産性、安全性は概ね問題なく施設の老朽化対応が検討課題」との診断を受けた。併せて、経営状況が厳しい老健事業で財団独自に専門コンサルを活用した経営分析を受診し、安定した収益確保に向けての課題の抽出や営業強化など今後の必要な取り組みを整理した。

・「人材確保・育成の推進」では、2024年度の人事評価制度の実施に向けて、他団体（こうべ市民福祉振興協会、市民病院機構）の実施状況を調査し、課題の整理を行った。

（2）短期的ミッションの達成状況

・「各事業の検証及び改善策の検討」については、地域包括ケアシステムの推進のために各事業の目標を設定のうえ、達成状況や効果を四半期ごとに理事長に報告し、検証・評価を行った。

・「新たなリハビリ医療の体制構築及び病院の老朽化対応」では、高齢者のQOL及び健康寿命の延伸のために、急性期から回復期・生活期へとシームレスな医療連携を、リハビリテーションを軸として多職種が介入し、全人的地域包括ケアの実現を目指し、2022年度は心臓リハビリテーションのプログラム構築とパイロット運用（キュア神戸）を開始した。（2023年3月よりパイロット運用開始）

・「財政健全化方策の検討」では、老健事業、訪問看護事業で医療職も参加し、コロナ禍での利用者確保や介護報酬上の効果的な加算の取得など収益向上に向けた対策について検討を行った。また、業務改善では給与明細・年末調整等のWEB化に取り組み、2022年5月にクラウド対応に切り替えることにより、年間で約100時間の業務時間短縮が実施できた。

・「具体的な人材確保・育成方策の検討」では、中央市民病院と理学療法士1名の人事交流を行い、急性期のリハビリテーション医療を学ぶ機会を確保するとともに、専門資格等の取得支援については、認定看護師養成のため、先行的に訪問看護師1名の認定看護教育課程の受講を支援し、人材育成に取り組んだ。

（3）市政への貢献・市民への還元状況

・再入院の予防や健康寿命の延伸に資する、心疾患等のリハビリテーションに取り組んだ。

・医療・介護連携にかかるコーディネーターの確保・育成、多職種連携の促進に取り組み、健康づくりの推進・医療の充実に貢献した。

※医療介護サポートセンターのコーディネーター研修 89回（前年比+20回）

・認知症初期集中支援チームとこうべオレンジダイヤルの一体的な運営により認知症神戸モデルの推進に貢献した。

※認知症初期集中支援チーム新規対応件数191件（前年比+5件）

こうべオレンジダイヤル相談受付件数731件（前年比+42件）

■外郭団体マネジメント推進本部の評価

(1) 総合的意見

地域包括ケアシステム構築の推進団体として、内部障害患者の受入れや心疾患等に対するシームレスなリハビリ医療体制の構築を目指した取組み（キュア神戸）を着実に実施している。また、専門性が必要な医療的ケア児に対する訪問看護も実施している。コロナ等の感染対策を継続すると共に、持続可能な経営基盤の確立や人材確保・育成の推進に向けた取組みを進めること。

(2) 数値目標の状況

評価項目	評価・指導
中長期的ミッション	内部障害患者の受入れの拡大や医療的ケア児に対する訪問看護に取り組み、さらなる地域包括ケアシステムの推進を図ること。
短期的ミッション	キュア神戸の取組みの継続、2022年度に検討した課題や改善策を踏まえて、業務改善や人材確保・育成の推進に向けた取組みを進めること。
団体目標	コロナの影響が大きく、全体収支を黒字化できなかったが、今後、財団全体の収支の改善に向けて取り組むこと。
市への貢献・市民への還元状況	内部障害リハビリの体制の構築に向けて取り組むとともに、市からの委託事業の適正な運営を通じて医療介護連携事業や認知症神戸モデルの推進等に引き続き取り組むこと。

(3) 今後の方向性

- 団体の存廃も含めた検討を要する団体 継続的な見直しを要する団体 取組みが着実に実施され成果が上がっている団体